

ゼリア新薬工業株式会社

2013年度(2014年3月期)
決算説明会

—2014年5月20日—

代表取締役社長 伊部 幸顕

I. 第7次中期経営計画の総括

- I-1) 収益体質の大幅改善
- I-2) 財務体質の大幅改善
- I-3) 株価の上昇
- I-4) 企業体質大幅改善の要因

II. 2013年度の業績(連結)

- II-1) 決算の概況
- II-2) 主要製品売上高
- II-3) 財務及びキャッシュフローの状況

III. 第8次中期経営計画

- III-1) 経営目標及び重要課題

IV. 2014年度の取り組みと通期の予想(連結)

- IV-1) 2014年度の主要課題
- IV-2) 研究開発:新薬パイプラインの状況
- IV-3) 通期業績予想

I . 第7次中期経営計画の総括

I 第7次中期経営計画の総括

- ◆ 企業体質を大きく改善
 - ✓ 収益体質の大幅改善
 - ✓ 財務体質の大幅改善: エクイティ・ファイナンス
 - ✓ 株価の上昇

< 主な要因 >

- ① アサコールの国内外での売上拡大
 - ② ヘパリーゼ群の躍進
-
- ◆ 自社オリジナルで世界初の機能性ディスペプシア(FD)治療剤「アコファイド錠100mg」の上市

◆ 当期純利益が毎年度順調に伸長し、2.9倍に拡大

当期純利益の推移

(単位:百万円)

第6次中期経営計画 最終年度	第7次中期経営計画		
	2011年度	2012年度	2013年度
2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1,843	2,861	3,982	5,277

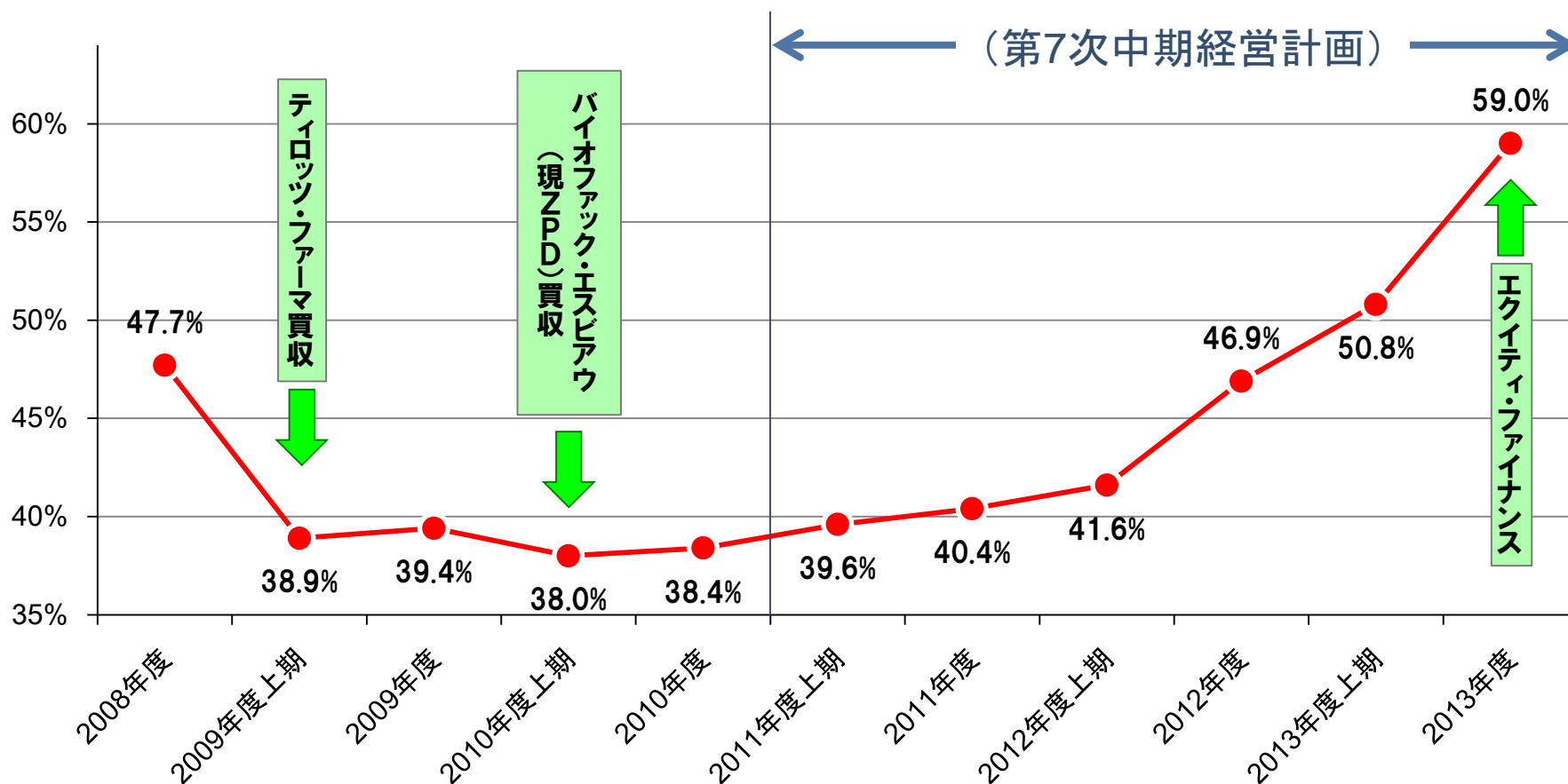
I -2) 財務体質の大幅改善:エクイティ・ファイナンス

◆ 自己株式処分により、約146億円を調達

I -2) 財務体質の大幅改善:エクイティ・ファイナンス

◆ エクイティ・ファイナンスにより財務体質が大きく改善

自己資本比率の推移



◆ 事業基盤と財務基盤の強化を通じ、グループの持続的な成長を図る

✓ 設備投資

埼玉工場:へパリーゼ、コンドロイチン、アサコール、アコファイド等、錠剤の生産増加への対応

海外の製造管理基準に合致する生産体制整備の着手

筑波工場:へパリーゼWを中心としたドリンク剤の生産増加への対応として、製造ラインを現状の2ラインから3ラインに増設し、ドリンク剤の製造能力を現在の9,000万本/年から1.5倍の1億3,500万本/年に拡大

✓ 新薬導入など研究開発関係やアジア地域での拠点設立などのための投資

◆ 第7次中期経営計画期間中で実質2～3.5倍に上昇

株価推移(2011年4月1日～2014年3月31日)



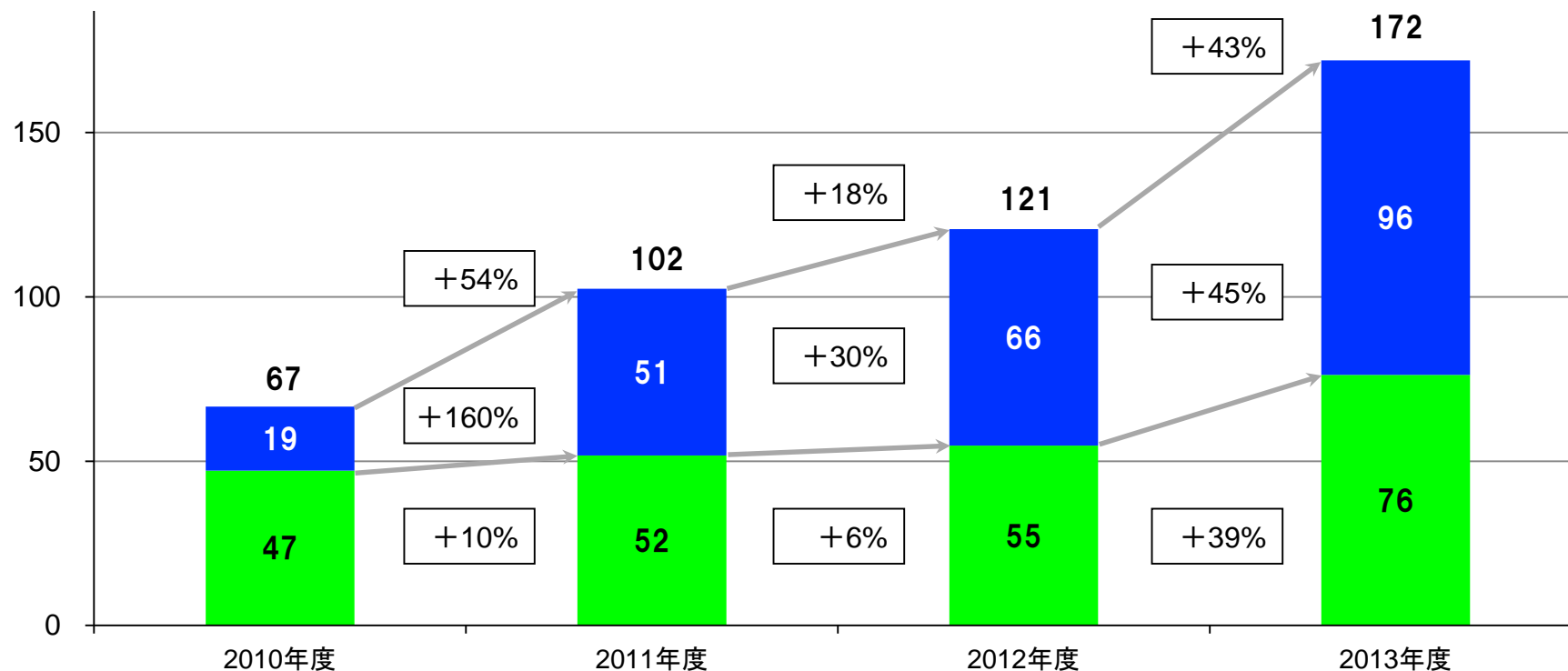
I -4) 企業体質大幅改善の要因:アサコール

◆ 国内・海外とも売上が伸長し、アサコール全体で2.6倍に拡大。

アサコール国内・海外売上高の推移

■ 海外売上高 ■ 国内売上高

(売上高、億円)

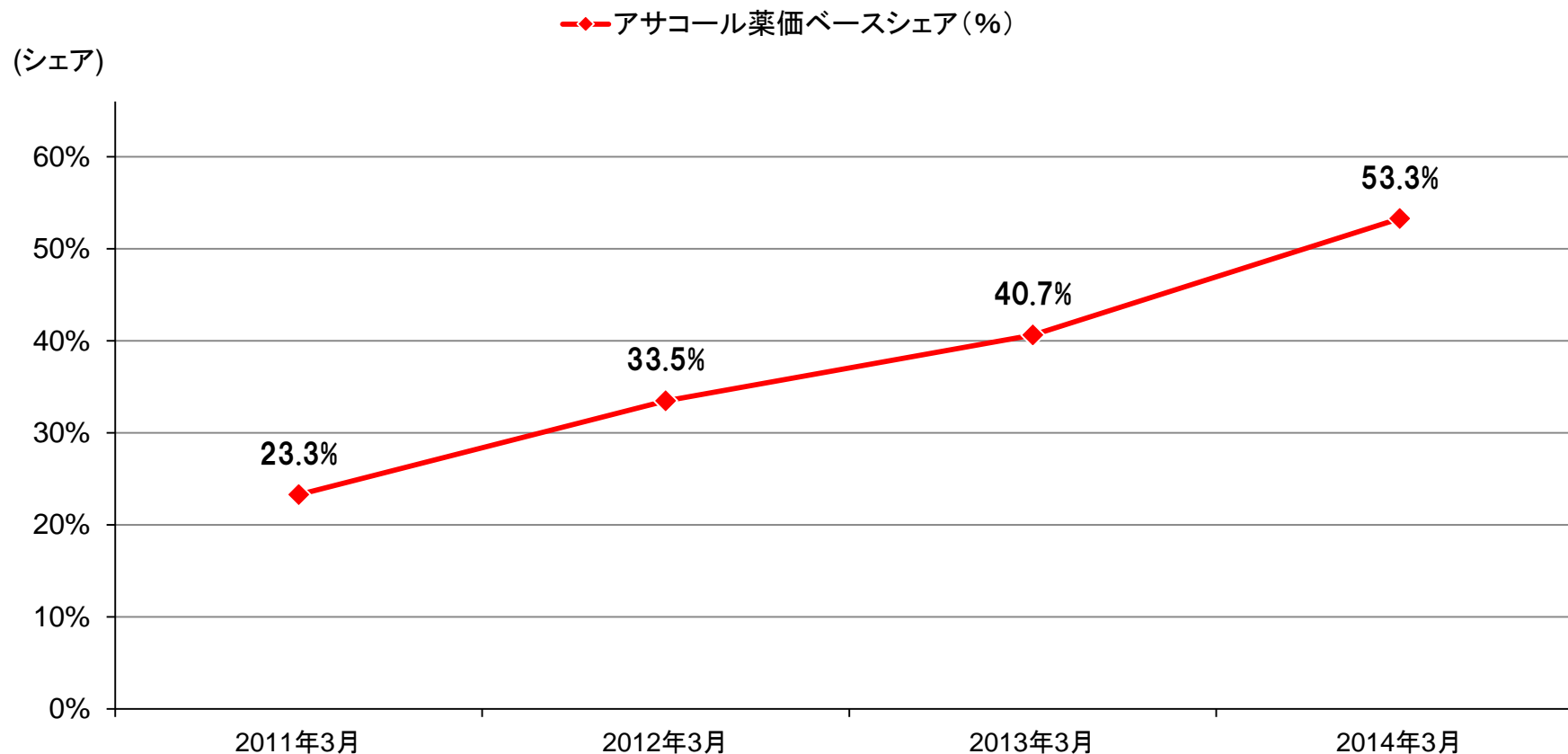


アサコール連結売上高：国内はゼリア自体の売上及びゼリアから協和発酵キリン(株)への売上、海外はティロツツの自販国での売上及び販売委託先への売上

I -4) 企業体質大幅改善の要因:アサコール

◆ 2014年3月に国内経ロメサラジン製剤市場でのトップシェアを獲得。

国内におけるアサコールの経ロメサラジン製剤市場での薬価ベースシェア*

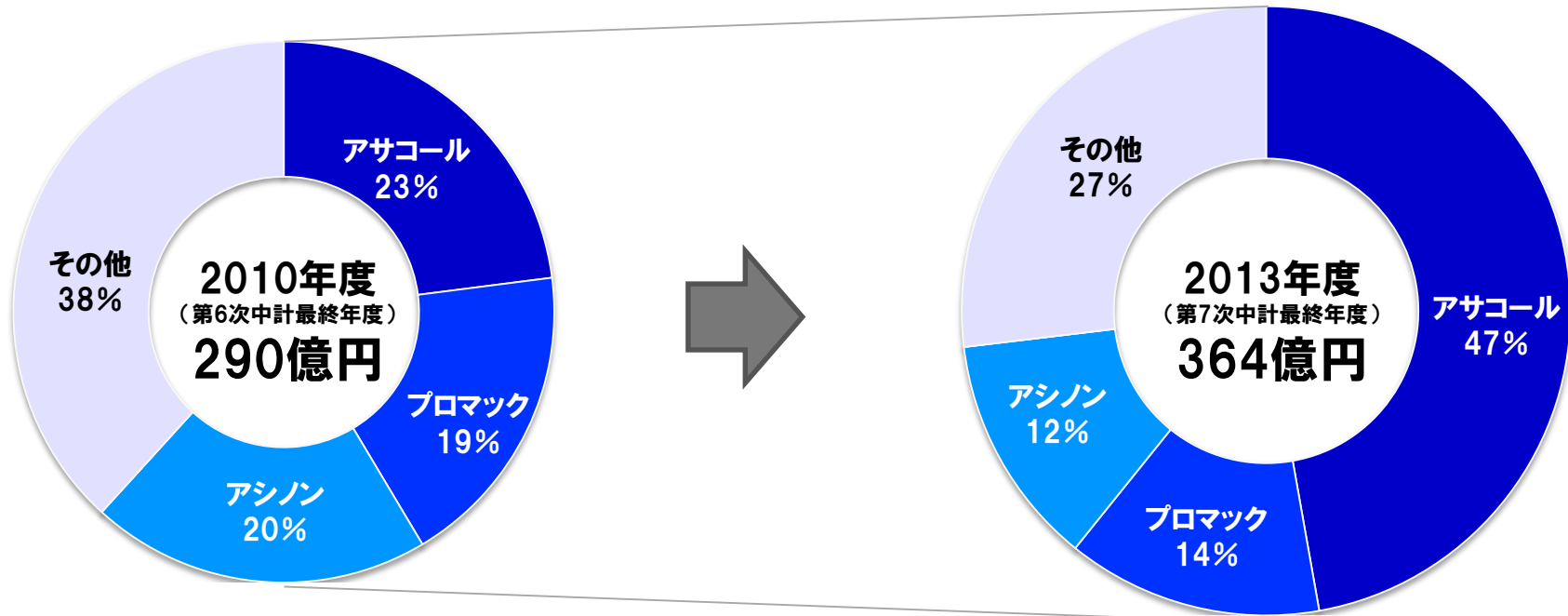


*: シェアは、各年度末月における経ロメサラジン製剤薬価売上高に占めるゼリア+協和発酵キリンのアサコール売上高

I -4) 企業体質大幅改善の要因:アサコール

- ◆ 収益性の高い製品の割合が増加。

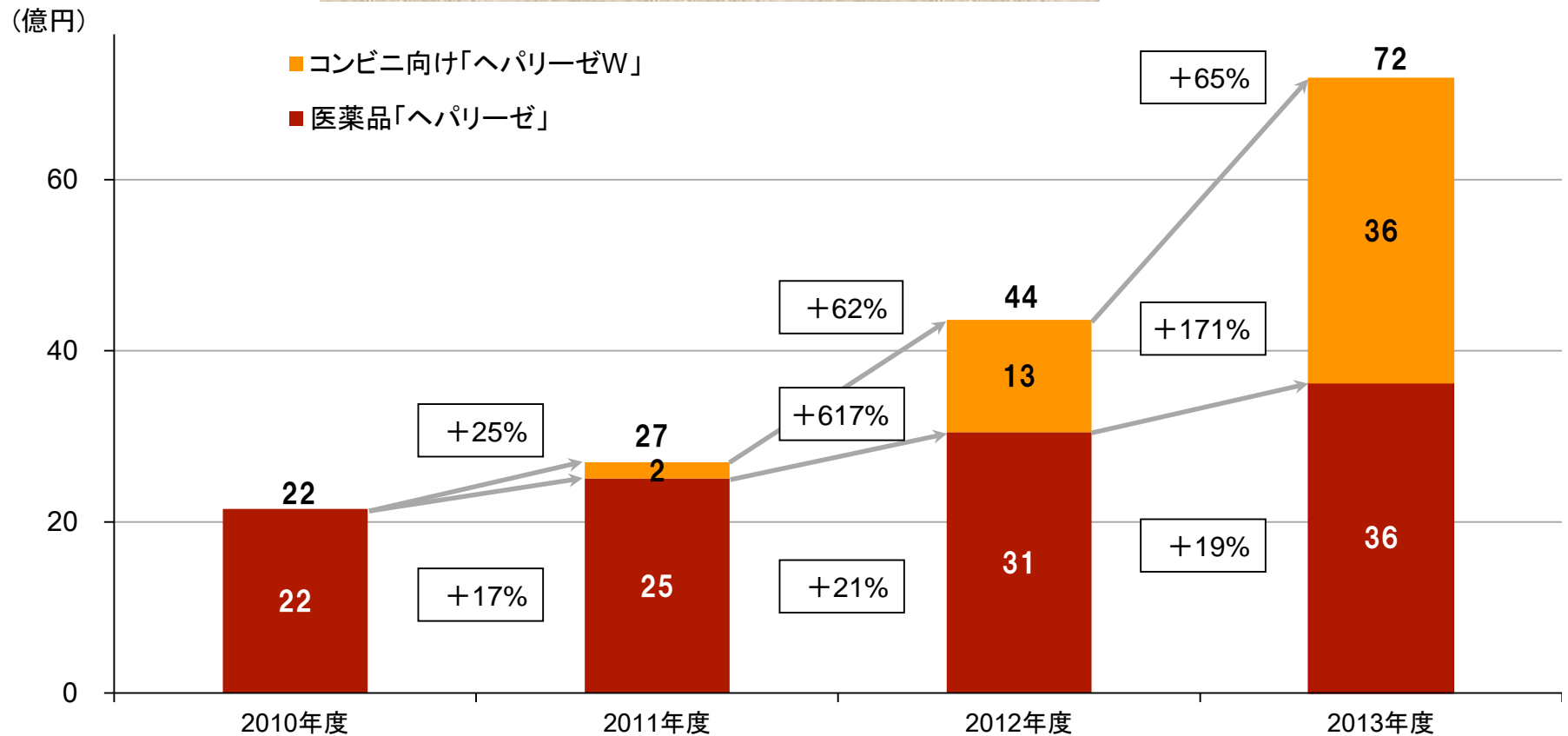
医療用医薬品事業における製品構成



I -4) 企業体質大幅改善の要因:へパリーゼ群

- ◆ 2011年度発売のコンビニ向け清涼飲料水「へパリーゼW」の売上が大きく貢献。
- ◆ へパリーゼブランドの認知拡大により、医薬品「へパリーゼ」も伸長し、へパリーゼ群全体で3倍強に拡大。

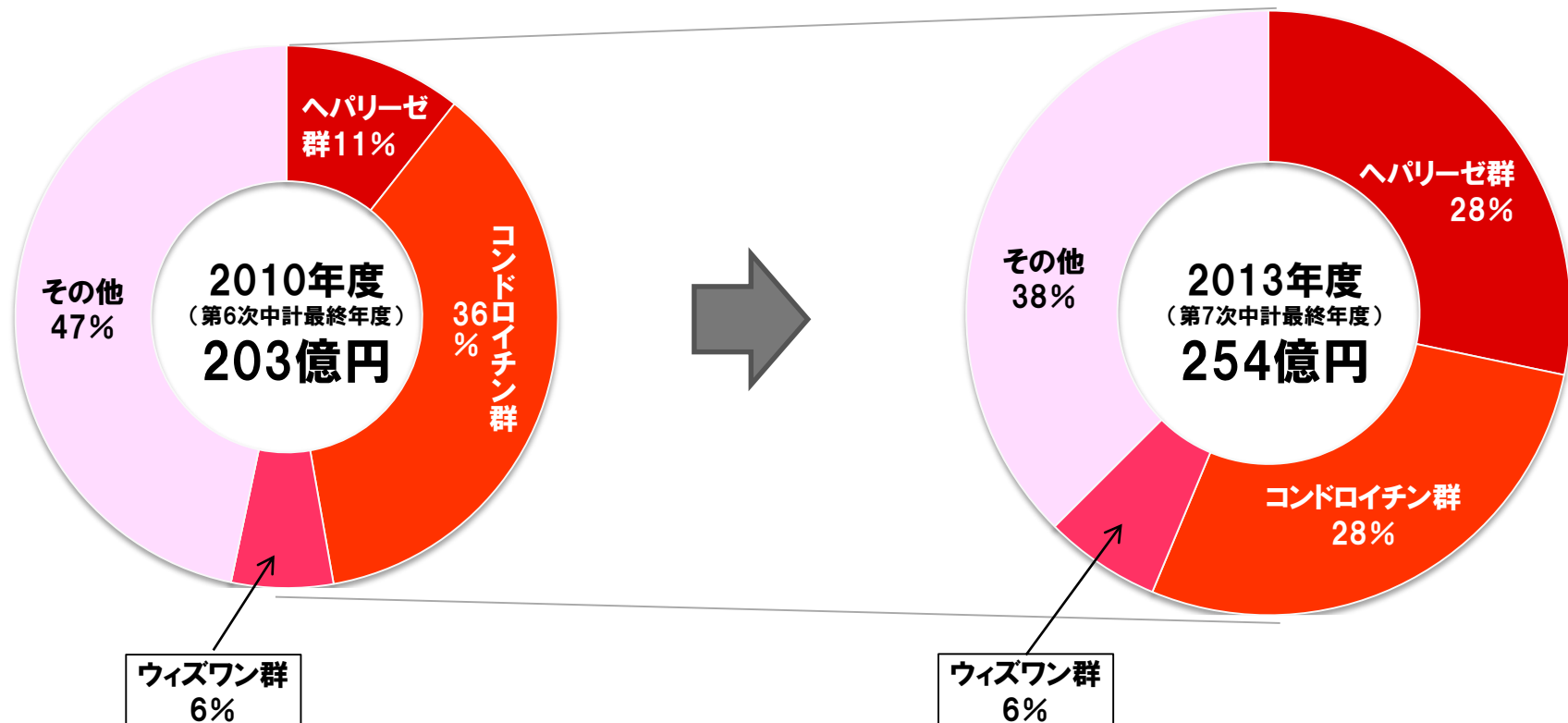
へパリーゼ群 カテゴリ別売上高の推移



I -4) 収益体質の大幅改善の要因:ヘパリーゼ群

- ◆ 収益性の高い製品の割合が増加。

コンシューマーヘルスケア事業における製品構成



Ⅱ. 2013年度の業績(連結)

Ⅱ-1) 決算の概況

◆ 売上高は前年比16.3%増、当期純利益は前年比32.5%増の増収・大幅増益。

(単位:百万円)	2012年度		2013年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前同伸率
売上高	53,317	100.0%	61,996	100.0%	16.3%
売上総利益	35,728	67.0%	43,644	70.4%	22.2%
販売管理費	31,117	58.4%	36,854	59.4%	18.4%
営業利益	4,611	8.6%	6,790	11.0%	47.3%
経常利益	4,676	8.8%	6,803	11.0%	45.5%
当期純利益	3,982	7.5%	5,277	8.5%	32.5%
一株当り配当	27円	—	(予定)29円*	—	(前年比)+2円*

* : 2013年10月1日を効力発生日として実施した株式分割を考慮しない場合の年間配当額は、30円50銭 (3.5円増配)

Ⅱ-2) 主要製品売上高

◆ 増収にはアサコール、ヘパリーゼ群の売上増が大きく寄与。

(単位:百万円)	2012年度	2013年度	
	実績	実績	前年伸率
医療用医薬品事業	31,920	36,430	14.1%
アサコール*	12,059	17,198	42.6%
プロマック	5,015	4,947	▲1.4%
アシノン	4,891	4,487	▲8.3%
コンシューマーヘルスケア事業	21,180	25,389	19.9%
ヘパリーゼ群	4,360	7,183	64.8%
コンドロイチン群	6,054	7,105	17.4%
ウィズワン群	1,390	1,582	13.9%

* アサコール連結売上高：①ゼリア自体の売上、②ゼリアから協和発酵キリン(株)への売上、③ティロツツの自販国での売上及び販売委託先への売上

Ⅱ-3) 財務及びキャッシュフローの状況

◆ 財務の状況

(単位:百万円)	2012年度末	2013年度末	増減
総資産	78,246	99,493	21,247
純資産	36,910	58,734	21,824
自己資本比率	46.9%	59.0%	12.1%
一株当たり純資産*	807.65円	1,105.78円	298.13円

* : 当社は2013年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき1.1株の割合で株式分割を実施しております。そのため、1株当たり純資産につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

◆ キャッシュフローの状況

(単位:百万円)	2012年度	2013年度	増減
営業活動によるCF	3,878	6,573	2,694
投資活動によるCF	571	△2,013	△2,585
財務活動によるCF	△3,340	9,001	12,341
現金等期末残高	7,235	22,070	14,835

Ⅲ. 第8次中期経営計画（2014～2016年度）

「飛躍の」と位置付け、「車の両輪」である医療用医薬品事業と
コンシューマーヘルスケア事業を力強く成長させるとともに、
アジアにおいて事業展開の第一歩を踏み出し、
グローバル企業としての基盤強化を図り、
継続的な発展を果たす。

Ⅲ-1) 経営目標及び重要課題

◆ 経営目標

- ✓ 連結売上高 850億円
- ✓ 売上高純利益率 8.5 %以上
- ✓ 連結自己資本比率 70 %以上

◆ 重要課題

- ✓ アサコールのシェア拡大
- ✓ アコファイドを医療用医薬品事業の柱に育成
- ✓ ブランドとしてのヘパリーゼを強力に推進
- ✓ アジア地域において、事業展開の拠点を設立
- ✓ Z-338の欧州開発のスピードアップ

IV. 2014年度の取り組みと通期の予想(連結)

IV-1) 2014年度の主要課題

◆ 医療用医薬品事業

- ✓ 「アサコール」売上高200億円及び国内経ロメサラジン製剤市場で年間トップシェア
- ✓ 「アコファイド」の早期市場育成

◆ コンシューマーヘルスケア事業

- ✓ 「ヘパリーゼ群」売上高100億円
- ✓ 「コンドロイチン群」売上高75億円

◆ 国際事業

- ✓ 海外子会社の更なる発展を推進
- ✓ アジア事業の拠点の設立

◆ 研究開発

- ✓ Z-338(「アコファイド」)の欧州フェーズⅢの推進
- ✓ Z-100のフェーズⅢアジア共同治験の開始

IV-2) 研究開発:新薬パイプラインの状況

国内消化器系分野

開発番号	自社/導入	開発	開発段階	適応症	作用機序および特長	一般名
Z-103	導入	自社開発	フェーズⅢ	味覚障害 「プロマック」効能追加	亜鉛補充	ポラプレジンク
Z-206	自社グループオリジナル	共同開発 (協和発酵キリン)	フェーズⅢ	潰瘍性大腸炎 「アサコール」用法用量追加	pH依存型放出調整製剤	メサラジン
Z-206	自社グループオリジナル	共同開発 (協和発酵キリン)	フェーズⅡ終了	クローン病 「アサコール」効能追加	pH依存型放出調整製剤	メサラジン
Z-360	自社オリジナル	自社開発	フェーズⅡ (アジア共同治験)	膵臓癌	ガストリンCCK ₂ 受容体拮抗作用	-

国内その他

開発番号	自社/導入	開発	開発段階	適応症	作用機序および特長	一般名
Z-100	自社オリジナル	自社開発	フェーズⅢ準備中 (アジア共同治験)	子宮頸癌	免疫調節作用	-
Z-213	導入	自社開発	フェーズⅠb準備中	鉄欠乏性貧血	静注鉄剤	Ferric carboxy-maltose

海外

開発番号	自社/導入	開発	開発段階	適応症	作用機序および特長	一般名
Z-206	自社グループオリジナル	共同開発 (Tillotts Pharma)	承認申請中 (中国)	潰瘍性大腸炎 「アサコール」	pH依存型放出調整製剤	メサラジン
Z-338	自社オリジナル	自社開発	フェーズⅢ (欧州)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	アコチアミド
Z-100	自社オリジナル	自社開発	フェーズⅢ準備中 (アジア共同治験)	子宮頸癌	免疫調節作用	-
Z-338	自社オリジナル	自社開発	フェーズⅡ終了 (北米)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	アコチアミド
Z-360	自社オリジナル	自社開発	フェーズⅡ (アジア共同治験)	膵臓癌	ガストリンCCK ₂ 受容体拮抗作用	-

IV-2) 研究開発:西洋ハーブ製剤

◆ 月経前症候群治療薬「プレフェミン」(要指導医薬品)

- ✓ 2014年4月3日、ダイレクトOTCとして製造販売承認取得
- ✓ 日本初の月経前症候群を適応症とする医薬品
- ✓ 欧州において長年にわたり一般用医薬品として実績がある西洋ハーブ(チェストベリーエキス)製剤
- ✓ 日本で2番目の西洋ハーブ製剤
- ✓ 上市準備中

◆ 今後の西洋ハーブ製剤の展開

- ✓ ティロツツ・ファーマから導入した「コルペルミン」など、複数の開発が進行中
- ✓ 西洋ハーブ製剤シリーズを当社の特徴的なカテゴリーとして構築

IV-3) 通期業績予想

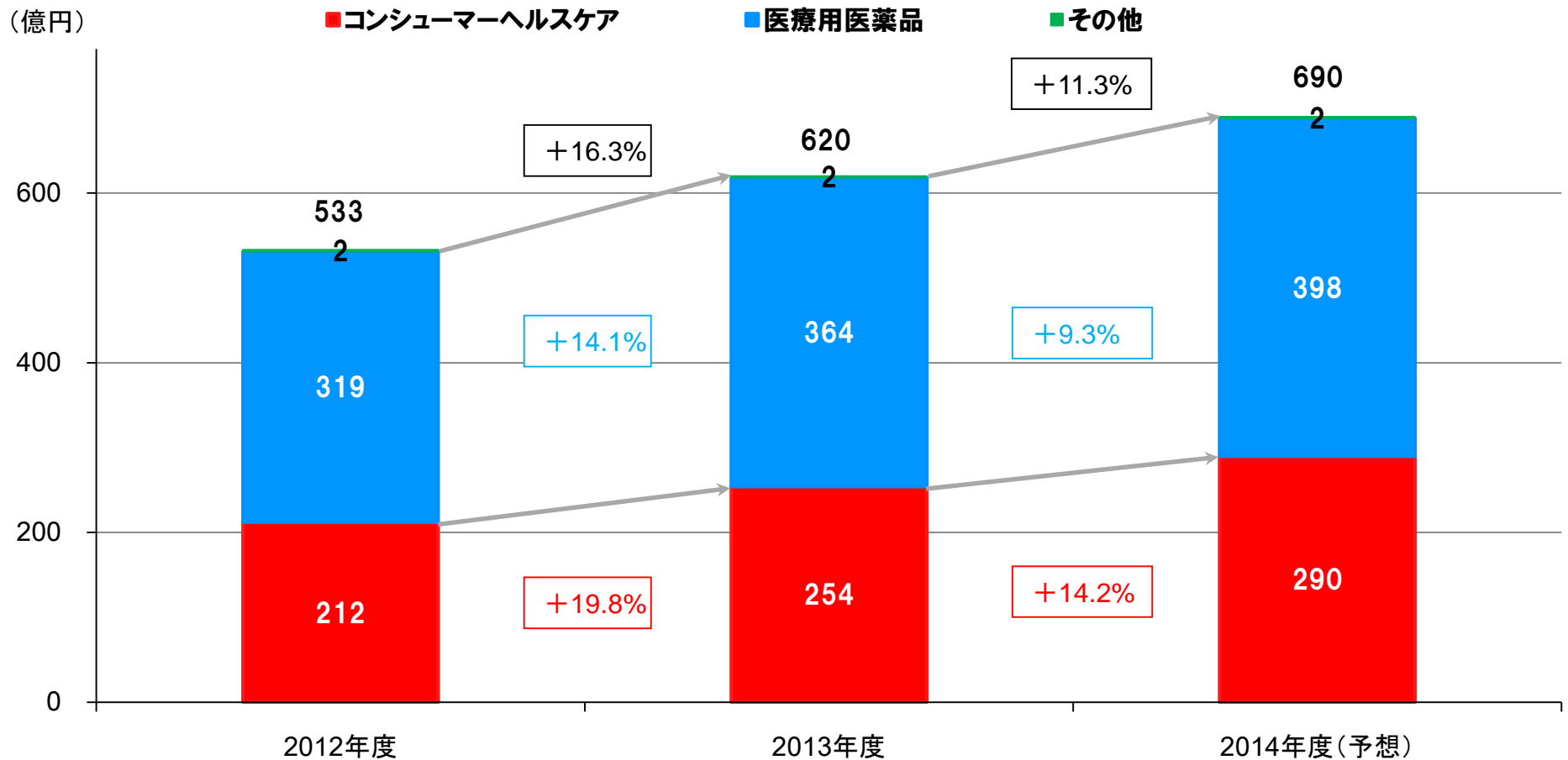
◆ 売上高は11.3%の増収。営業利益は9.0%、当期純利益は9.9%の増益と予想。

(単位:百万円)	2013年度	2014年度	
	実績	予想	前年伸率
売上高	61,996	69,000	11.3%
営業利益	6,790	7,400	9.0%
経常利益	6,803	7,400	8.8%
当期純利益	5,277	5,800	9.9%
研究開発費	7,464	8,500	13.9%
海外売上高	8,316	10,000	20.3%
一株当たり配当	(予定) 29円	30円	—

IV-3) 通期業績予想:売上高

- ◆ 売上高は690億円、前年比70億円(+11.3%)の増収と予想。
- 医療用医薬品事業、コンシューマーヘルスケア事業ともに増収を予想。

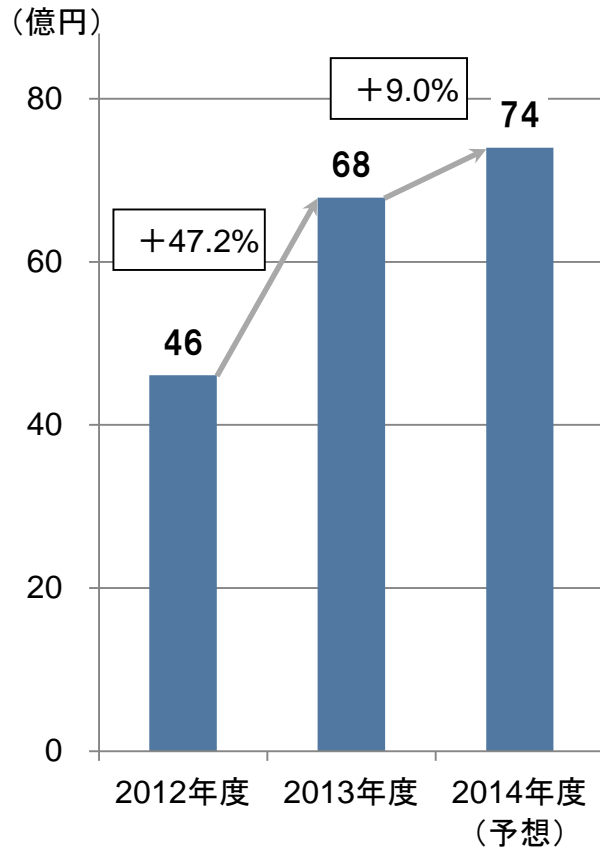
セグメント売上高の推移



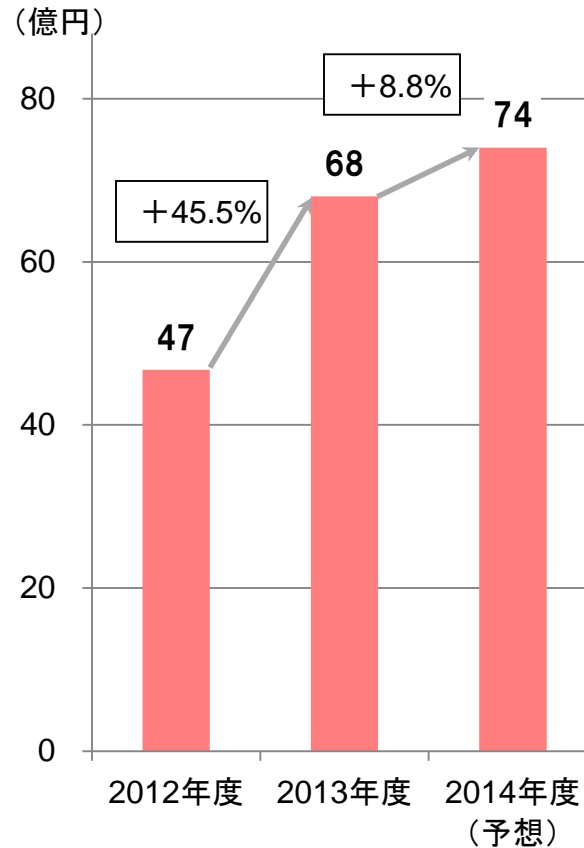
IV-3) 通期業績予想:利益

- ◆ 営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも前期に引き続き増益。
- 営業利益は9%、経常利益は8.8%、当期純利益は9.9%の増加と予想。

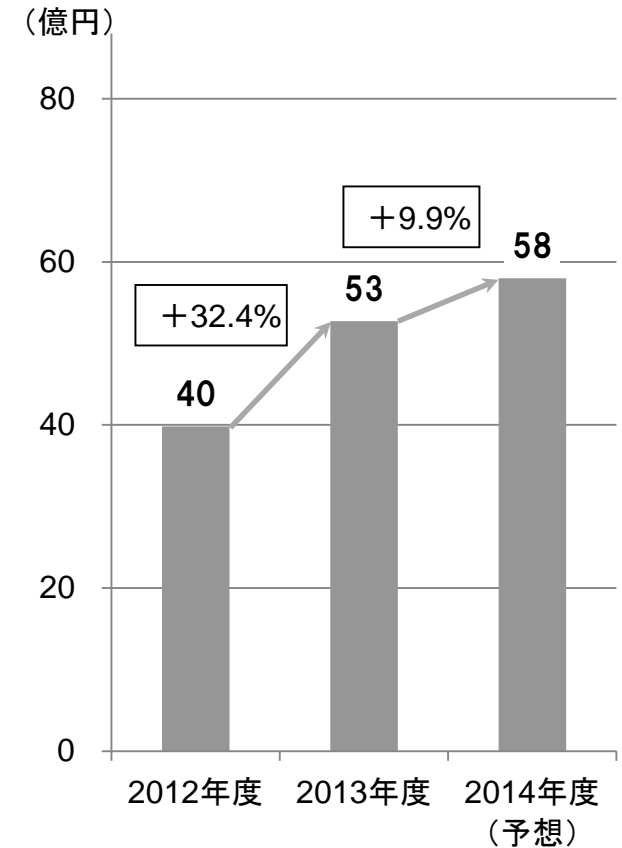
営業利益



経常利益



当期純利益



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。

お問合せ先: 広報部 森山まで
Tel. 03-3661-1039
Fax. 03-3663-4203